

早わかり！単元計画の作成手順

～小学校 外国語科 第5学年
We Can! 1 Unit 5 を例にして～

本資料で例示する単元：We Can! 1, Unit 5 「She can run fast. He can sing well.」

各教科書会社の関連単元：

- Junior SUNSHINE 5（開隆堂），Lesson 4 「Can you do this?」
- NEW HORIZON Elementary English Course 5（東京書籍），Unit 4 「He can bake bread well.」
- ONE WORLD Smiles 5（教育出版），Lesson 5 「I can run fast.」



1. 指導する領域別目標を確認する ……「学習指導要領」を読みましょう！

- 外国語活動では「聞くこと」「話すこと[やり取り]」「話すこと[発表]」の3つ、外国語科では「聞くこと」「読むこと」「話すこと[やり取り]」「話すこと[発表]」「書くこと」の5つが、領域別目標として設定されています。
- 指導すべき内容の領域別目標を指導者が分かっていなければ、子どもに力をつけることはできません。
- 「学習指導要領」には、外国語科において、下のように領域別目標が示されています。



| | |
|--------------|---|
| 聞くこと | イ ゆっくりはっきりと話されれば、日常生活に関する身近で簡単な事柄について、具体的な情報を聞き取ることができるようにする。 |
| 読むこと | イ 音声で十分に慣れ親しんだ簡単な語句や基本的な表現の意味が分かるようにする。 |
| 話すこと [発表] | イ 自分のことについて、伝えようとする内容を整理した上で、簡単な語句や基本的な表現を用いて話すことができるようにする。 |
| 書くこと | ア 大文字、小文字を活字体で書くことができるようにする。 |

2. 単元の目標を設定する ……単元でどんな力をつけるのか明確にしましょう！

- 領域別目標をしっかりと理解した上で、単元の目標を設定します。
- 各学校が設定する学習到達目標(CAN-DOリスト)をもとに、英語を用いて何ができるようになるのかをあらかじめ明らかにします。



相手に自分や第三者のことをよく知ってもらうために、できることやできないことなどについて聞いたり、自分の考えや気持ちを含めて話したりすることができる。また、文字には音があることに気付くとともに、アルファベットの大字・小文字を活字体で書くことができるようにする。

本単元では、記録に残す評価は「話すこと[発表]」のみとしています。「聞くこと」「読むこと」「書くこと」については、目標に向けての指導を行い、本単元以降で記録に残す評価を実施します。どの単元で、どの領域についての記録に残す評価を実施するのかを考え、計画的な評価を行うことが大切です。



3. 単元の評価規準を設定する ……評価のための判断のよりどころを決めよう！

外国語科では、下のような評価規準のフォーマットが示されています。



| 知識・技能 | 思考・判断・表現 | 主体的に学習に取り組む態度 |
|--|--|---|
| <知識> 【言語材料】について理解している。 <技能> 【事柄・話題】について、【言語材料】などを用いて、【内容】を話す技能を身に付けている。 | 【目的等】に応じ、【事柄・話題】について、簡単な語句や基本的な表現を用いて【内容】を話している。 | 【目的等】に応じ、【事柄・話題】について、簡単な語句や基本的な表現を用いて【内容】を話そうとしている。 |

指導内容を確認しながら、フォーマットに則って設定します。



| 知識・技能 | 思考・判断・表現 | 主体的に学習に取り組む態度 |
|--|---|--|
| <知識> I/He/She can ～. Can you ～?など、自分や相手、第三者ができることやできないことを表す表現やその尋ね方、答え方について理解している。 <技能> 自分や相手、第三者ができることやできないことについて、I/He/She can ～. Can you ～?などの表現を用いて、自分の考えや気持ちなどを含めて話す技能を身に付けている。 | 相手に自分や第三者のことをよく知ってもらうために、自分や相手、第三者ができることやできないことなどについて、自分の考えや気持ちなどを含めて <u>話している。</u> | 相手に自分や第三者のことをよく知ってもらうために、自分や相手、第三者ができることやできないことなどについて、自分の考えや気持ちなどを含めて <u>話そうとしている。</u> |

外国語活動・外国語科では、思考・判断・表現と主体的に学習に取り組む態度には深い関わりがあることから、文末を太字下線部のように対の形で示し、両者を一体的に評価することができることにしています。

4. 指導と評価の計画を作成する

- 単元の評価規準では「知識・技能」を分けていますが、理解した「知識」を使うことができる「技能」として、1時間の授業において両者を一体的に評価することができます。
- 単元末に進むにつれて、評価規準を、単元で目指す児童の姿へと近づけていきます。



単元の指導計画（例） 5年 We Can! 1, Unit 5 「She can run fast.He can sing well.」

| 時 | 学習活動 | 評価規準 | 評価の方法 |
|--------|---|---|------------------|
| 1 | ○ 動作を表す語や「できる」「できない」という表現を理解する。 | <知識・技能> 動作を表す語や、できることやできないことを表す表現について、聞いたり言ったりしている。 | 【行動観察】 |
| 2 | ○ 動作を表す語やあることができるかどうかについて、聞いたり話したりする。 ○ アルファベットの文字を活字体で書く。 | <知識・技能> 動作を表す語や、できることやできないことを表す表現について、正しく聞き取っている。 | 【記述分析】 |
| 3 | ○ あること（スポーツ、趣味、特技等）ができるかどうかを友だち（ペア）で尋ね合う。 ○ アルファベットの文字を活字体で書く。 | <知識・技能> スポーツ、趣味、特技等ができるかどうかを尋ねたり答えたりしている。 | 【記述分析】 |
| 4 | ○ あること（スポーツ、趣味、特技等）ができるかどうかを、学級の友だちと尋ね合う。 ○ アルファベットの文字を活字体で書く。 | ★<知識・技能> スポーツ、趣味、特技等ができるかどうかを尋ねたり答えたりしている。 | 【行動観察】 【記述分析】 |
| 5 | ○ 第三者ができることやできないことについて話を聞く。 ○ アルファベットの文字の読み方には、名称のほかに音があることに気付く。 | <知識・技能> 第三者を紹介するためのHe/Sheを使った表現について、正しく聞き取っている。 | 【記述分析】 |
| 6 | ○ 第三者についてできることやできないことを話す。 ○ アルファベットの文字の読み方には、名称のほかに音があることに気付くとともに、アルファベットの活字体を書く。 | ★<知識・技能> 友だちについて、He/She can ～. He/She can't ～などの表現を用いて、できることやできないことを話している。 | 【行動観察】 |
| 7 8 | ○ 自分や身近な先生のことをよく知ってもらうために、できることやできないことなどについてインタビューを行い、自分の考えや気持ちも含めて友達に紹介する。 ・第7時：ペアの相手を替えながらグループ内で話し、アドバイスをし合って次時に向けて改善を図る。 ・第8時：学級全体の前でスピーチをする。 ○ アルファベットの文字を見て、その音とその音で始まる動物を言う。 | ★<思考・判断・表現> ≪自分や身近な先生のことをよく知ってもらうために、できることやできないことなどについて、自分の考えや気持ちなどを含めて≫話している。 <主体的に学習に取り組む態度> ≪同上≫話そうとしている。 | 【行動観察】 |

★は、記録に残す評価を行うことを示しています。



5. 単元の指導計画（指導と評価の計画）をもとに、本時の評価規準を具体的にする

【具体的にした第7・8時の評価規準 <思考・判断・表現>】

インタビュー結果をもとに、スポーツや趣味、特技など、先生ができることやできないことについて、自分のことや感想も含めて友だちに発表している。



【B児】

Hello. Hori sensei, this is Hori sensei.
He can run fast. ... Nice. I, ... I can't run fast.
He can swim. I can't swim. I don't like swim. I don't like sports. Thank you.

「おおむね満足できる状況」と評価

【C児】

Hello. Okada sensei, Okada sensei. (似顔絵を指しながら)
She can ... tennis. Nice! Tennis, OK. Good. (ジェスチャーを付け、ガッツポーズもしながら)
She ... can ... swim. I can ... swim. Yes, swim! (OKのマークを手で示しながら)

「努力を要する状況」と評価



Small Talk等で児童にCan you ～?と尋ね、答えに応じて指導者がI can(can't)～.と自分のことを加えて言い、児童が何度も聞く機会を設ける。

- 評価計画に設定したものを、そのまま活用する場合がありますが、子どもの学習状況をつかむには、より具体化することが大切です。
- C児は、自分や第三者のことを何とか伝えようとしています。しかし、既習の表現を適切に用いて、先生ができることやできないこと、自分のことや感想を含めて話していません。だから、適切な支援が必要なのです。
- 授業中の評価に加え、学期に1回程度のパフォーマンス評価において、総括的な評価を行うことも考えられます。

